



「桜井徳太郎賞」最優秀賞に

竜ヶ崎一高チーム

地域に根ざした研究を奨励する「第15回桜井徳太郎賞」高校生の部最優秀賞に、県立竜ヶ崎一高2年生チームの共同研究が選ばれた。かつて同校の象徴だった西洋風の講堂を追及した論文「『まぼろし』の講堂を追って―竣工、解体、そして伝説へ」が評価された。

資料だけに頼らず、現

などに使われ、80年に解体された。同校で保管されている設計図と装飾材の一部が手がかりになった。

同じ設計図を基に、現在の4高校(竜ヶ崎一▽太田一▽水海道一▽水戸二)の講堂が同一時期に建った。チームは唯一現存する常陸太田市の太田一高講堂(国重要文化財)を訪れ、巻き尺で測った。外形の縦横は図面と一

ついていた。太田一高は4輪だ。論文は「細かい部分は建築を請け負った棟梁たちの裁量によって決まっていたことがうかがえた」と結論つけた。

論文は約1万6000字。5人が分担し仕上げた。樽井さんは「太田一高講堂の内部が設計図と違ったのは大きな驚きだった」と感想を述べた。また研究の中で竜ヶ崎一高の同窓生に聞き取り調査をし

同形の4校講堂、調査研究

【安味伸二